バイトテロ問題

労働問題マンガ教材

労働問題ケーススタディ
紙芝居

こちらは、Ａ社長です。

Ａ社長は、チェーン店の居酒屋を３店舗経営する社長です。Ａ社長は、もともと、若いときから居酒屋でアルバイトをしており、居酒屋の雰囲気が好きだったことから、今では居酒屋を３店舗経営しています。

『よーし、今日もがんばるぞ。
今日も、お客さんに喜んでもらって、お店をたくさん盛り上げていこう』

他方、こちらは、Ｂ専務です。Ｂ専務は、１５年前に入社し、長く、社長の右腕として、活躍しています。真面目で実直な働きぶりに、社長はとても助けられています。

そのＢ専務が、慌てて、社長のところに来ました。

『社長！大変です！！』

『おお、専務、いったいどうしたんだい？』

取材申込
SNS炎上

『はい、なんと、テレビ局や新聞社から、わが社へ取材の申込が来ました。私は、SNS というのが、よくわからないのですが、わが社が、SNS で、今、大炎上しているそうです！』

『ええっ！いったいどういうことだ！？なんでそんなことになってしまったんだ？』

土足冷蔵庫
シンク入浴

『はい、どうやら、わが社のアルバイトが、土足で冷蔵庫に入ってふざけているよう様子であるとか、食器洗いシンクに入って入浴している様子などを、SNS にアップしたそうで、その映像がとても不衛生極まりないということで、大問題になっているそうです』

『ええー！なんてこったー！！それ、いわゆるバイトテロってやつじゃないか。
　まさか、わが社の従業員に限って、そんなことは絶対ないと思っていたのに。そんなあ！まあでも、たしかに、最近人手不足で、一気にアルバイトの数を増やしたばかりなんだよな。そのあたりの教育が行き届いていなかったからなんだろうか。困った困った！！』

原因究明
再発防止
謝罪

『とりあえず、事態がおさまるよう、それぞれ手分けして動こう。原因を究明して、再発防止策を考えて、謝罪をしよう』

『はい、わかりました』

翌日

そして、翌日のことです。

Ｂ専務がまた慌ててやってきました。

『社長、大変です！！』

『おお、Ｂ専務、いったいどうしたんだ？』

フランチャイズ打切り

『なんと、わが社のフランチャイザー、つまりフランチャイズの本部から、事情聴取の連絡がありました。場合によっては、フランチャイズ契約の打ち切りもあり得るそうです』

『ええー！なんてこったー！！そんな、フランチャイズ契約打ち切りになったら、わが社はもう倒産するしかないぞ。とにかく、誠実に、事情聴取に応じて、できることを最大限やるしかない』

懲戒解雇
損害賠償
刑事告訴

こうして、A社長は、フランチャイズ契約の本部から事情聴取をされ、事件を起こしたアルバイト従業員に対しては厳罰をもって臨む、という約束をしました。

具体的には、懲戒解雇、損害賠償請求、信用棄損や業務妨害を理由に刑事告訴までするということを約束し、フランチャイズ契約の打ち切りは、免れました。

１００万円
損害賠償
欠席・確定

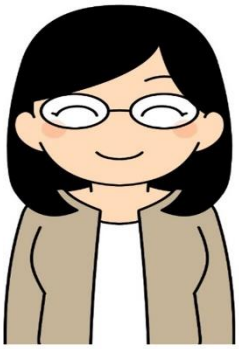
A社長は、問題を起こしたアルバイト従業員に対して、１００万円の損害賠償請求の裁判を起こしました。

問題を起こしたアルバイト従業員は裁判に来なかったため、A社長の勝訴が確定しました。

『よーし、これで問題を起こしたアルバイトに対する１００万円の損害賠償請求が認められたぞ。はー、よかったよかった。

ところで、この１００万円は、いつ払ってもらえるのだろうか。ちょっと裁判所の職員さんに電話で聞いてみよう』

裁判所職員



C子

こちらは、裁判所の職員さんです。A社長は状況を説明しました。

『あのー、みなさん、誤解している方が多いのですが、裁判所で勝訴の判決が出ても、そのあと、裁判所の方で、相手からお金を取り上げて、そちらにお支払いするっていう制度は、ないんですよ』

強制執行

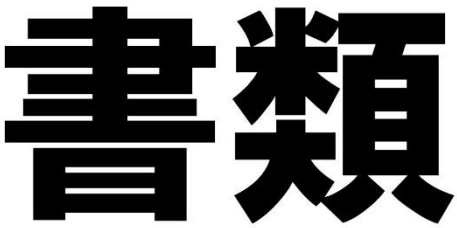
『判決文が出ても、相手方が支払いをしないのであれば、今度は、「強制執行」という手続をする必要があるんです』

『ええー！そうだったんですか！？もう裁判だけでこんなに時間がかかったのに、まだお金がもらえるわけじゃないんですね。大変だなぁ。そういえば、強制執行ってなんか聞いたことがある言葉だなあ。
　じゃあ、すみません、その強制執行、お願いできますか？』

『あのですね、強制執行というのは、まずは、ご自身で書類を作ったり、ご自身で手続をしたりするものなんですよ』

『ええー！裁判所でやってくれるものではないんですか！？また面倒そうだなぁ』

『はい、あのー、あまりご存知ないようなので、そもそものお話をさせていただきますが、強制執行するということであれば、相手の、どんな財産に強制執行するか、ご自身で、調査したりして、決める必要があるんです。たとえば、預貯金とか、不動産とか、そういった財産ですね』



『それが決まったら、その強制執行の手続に合った書類を、裁判所に提出していただいて、ようやく、強制執行の手続が始まることになるんです。そのため、判決を取っただけでは、強制執行になるわけではないんです』

『ええー！そうだったんですかぁ。でも、私、相手の詳しい情報があるわけではないので、１００万円が入金されている預貯金口座があるかどうかとか、不動産を持ってるかどうかなんて、全然知らないんです。

もしかしたら、見つからないかもしれないし、見つかっても、ほとんど価値がないっていう可能性もありますよね？』

『はい、そういったことは、よくありますね』

『そ、そ、その場合は、この勝訴の判決文は、どうなっちゃうんでしょうか？』

『その場合は、残念ながら、最終的には、結局、なにも回収できないということで、それで終わりになってしまうことも、よくありますね』

『ええー！長い時間をかけて、ここまでやったのに、そんなー。なんてこったー！！』

その後、Ａ社長は考え込んでいました。

『いやー、それにしても、今回のバイトテロ騒動はひどい目にあった。連日、炎上の対応で気が気じゃないし、生きた心地がしないよ。時間も労力もお金も、大変な損失になった。もう絶対、二度とこういうことが起こらないように、厳格にやっていかなきゃならないな』

SNS 禁止

『今回、入社したばかりのアルバイトが起こしたことだから、特に、入社したばかりの人に対策をする必要がある。よし、決めたぞ、求人情報に、わが社の入社条件の一つに、SNS は使用禁止、SNS を使用する人は入社できないことを厳しく厳しく、書いておこう。

そうすることで、そういう危険性のある人が社内に入ってこないようにすればいいんだな。よし、そうしよう』

１か月後

そして、一か月後のことです。

また専務が慌ててやってきました。

『社長、大変です！！』

『おお、専務、いったいどうしたんだい？』

応募者ゼロ

『はい、新たに出した求人、応募者が０になってしまいました！！』

『ええー！いったいどうしてなんだ！？』

『はい、どうやら、求人情報に、SNS の使用禁止と書いたのが、かなり抵抗があるようで、そういうことが書いてない求人情報のほうに、人が流れたのではないかと思われます』

『ええー！そんなぁ。これじゃ、今度は、人手が足りなくてやっていけないよ。もう踏んだり蹴ったりじゃないか。なんてこったー！！』

＜参考＞

昨今、話題になったバイトテロ問題を題材にしたマンガ教材を制作しました。

特に、法的な難しさや、昨今の人手不足への関連について、参考にしていただければ幸いです（この物語は制作時点の情報に基づくものであり、法令改正・判例変更等の可能性がありますので最新情報をご確認ください）。